

境港市温室効果ガス排出削減実行計画（区域施策編）（案）に係るパブリックコメント実施結果について

意見募集期間	令和6年4月11日（木）～ 令和6年5月10日（金）
資料公開場所	境港市清掃センター、境港市役所本庁舎、市内各公民館、境港市ホームページ
意見提出者数	3人

件数	番号	該当ページ	意見の主な内容	市の考え方・対応	計画修正の有・無
1	1	P.12	○気温・降水量のグラフについて 気候の要素を示すには一般的に平年値（30年）を使用する。1年だけのデータは各年によって特徴が異なり不適である。	（回答） ご意見ありがとうございます。30年間の平均値が適切と判断し、修正させていただきました。 修正前）境観測所の月平均気温（令和4（2022）年度） 修正後）境観測所の月平均気温（平成2年（1991）年から令和2（2020）年度まで30年平均値）	有
	2	P.12	○県の年平均気温について P.12にある県の年平均気温とは、どの観測地点のデータか。また、境観測所でも同様な資料を作成していないか、鳥取地方気象台に問い合わせさせていただきたい。	（回答） 鳥取地方気象台に確認したところ、観測地点は鳥取市吉方（鳥取地方気象台）でありましたので情報を追記しました。また、境観測所では同様な資料は作成していないとのことです。 修正前）県の年平均気温 修正後）県の年平均気温（観測地点：鳥取市吉方）	有
	3	P.14	○降水量について 境の降水量平年値から8月の降水量は多くありません。令和4（2022）年のデータから引用したと思われますが、8月は梅雨が明け、太平洋高気圧に覆われるため、降水量は他の月に比べて少なくなる傾向にあります。	（回答） ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、7月以降は一般的に梅雨明けによって降水量が減少する傾向にありますので記述を削除いたしました。 修正前）特に7～8月に降水量が多いことが特徴です。 修正後）記述を削除	有
	4	P.1	○降水量の観測史上最大の期間について 「令和3（2021）年7月に発生した梅雨前線による大雨では、1時間に80.5mmという観測史上最大の猛烈な雨に見舞われ、12時間の降水量も204.5mmと観測史上最大の記録となりました。」記述内容に齟齬はありません。ただ、観測史上最大が何時からの記録か誤解を招くおそれがあります。境の観測地点の降水量記録は明治1（1883）年からあります。昔の雨量観測は、現在の転倒ます型雨量計による自動観測ではなく、貯水型雨量計により人の手で観測されていました。それも時代によって観測時間や統計方法が異なり、現在と整合がとれない期間があります。1時間及び12時間最大降水量は明治16（1883）年からの記録ではありません。一般の方はそこまで知らないで、境の観測史上となると140年前からの値と誤解してしまいます。そこで括弧付けで以下のように記述願います。1時間に80.5mmという観測史上最大（昭和6（1931）年～）の猛烈な雨に見舞われ、12時間の降水量も204.5mmと観測史上最大（昭和51（1976）年～）の記録となりました。	（回答） ご意見ありがとうございます。鳥取地方気象台に確認をとることができましたので、観測史上での記述について、追記させていただきました。 修正前）1時間に80.5mmという観測史上最大の猛烈な雨に見舞われ、12時間の降水量も204.5mmと観測史上最大 修正後）1時間に80.5mmという観測史上最大（昭和6（1931）年～）の猛烈な雨に見舞われ、12時間の降水量も204.5mmと観測史上最大（昭和51（1976）年～）	有
2	5	—	○温室効果ガス排出削減は不要または増やしてはどうか 温室効果ガス削減は境港市を含む日本海側地域に限っては不要である。この政策が必要な地域は、太平洋側の都市部のみである。境港市を含む日本海側は過疎地域なので、生産と消費を活性化させる（温室効果ガスを出す）ような政策が必要だ。	（回答） ご意見ありがとうございます。排出される温室効果ガスは気体であることから地球全体に拡散されるものとなります。本市も含め地球全体で取り組む問題であると考えております。	無
3	6	—	○再生可能エネルギー以外の取り組みについて 再生可能エネルギーによる温室効果ガスの排出抑制も必要ですが、他の方法も併せて、同時に実施する必要があると考えます。また、実際、本方針で何%削減出来、環境への影響軽減の寄与度は、どれだけあるのか。	（回答） ご意見ありがとうございます。本計画においても、再生可能エネルギーの導入に加えて、省エネやごみを減らすなどの生活様式の変容についても記述しております。本計画では令和12（2030）年までに平成25（2013）年度比60%減を目標としております。	無
	7	—	○事業者への補助の拡充について 地球温暖化は、地球沸騰化ともいわれ、環境への負荷が、大きく、近い将来、地球の自然復元力を超える温室効果ガスの影響が発生すると言われております。この点は、今回の策で十分に対応できると私は思えません。行政が更に費用を負担し事業者への取り組みへ補助をする必要があると考えます。	（回答） ご意見ありがとうございます。現在、市では事業用太陽光発電設置（10kW未満）への補助制度があります。今後、事業者の方への省エネ診断セミナーや再生可能エネルギーについてさらなる周知を考えております。その際には、市に加え、県や国の補助メニューについてご紹介させていただきます。	無
	8	—	○温室効果ガス排出削減の進め方について 温室効果ガス排出削減について、直ちに、可能な策を全て実施する施策を世界で行う必要があると考えます。もう、時間がありません。この認識が不足していると感じています。かつて、日本は、公害問題で、後手を踏み、その対応に苦心したと記憶しています。CO2問題も同様に、以前から問題視されていましたが、日本の対応は、世界的に、遅れていると聞いています。技術立国日本なのに残念です。パブル崩壊後のコスト重視の政府の施策がこの原因だと考えています。是非、歴史を学び、考え方を改めてほしいと思います。環境問題の解決に、コスト計算をすると、早期の達成は、無理です。出来ることすべてを早期に実施してほしいです。市の予算も可能な限り、環境対策にシフトしてください。本問題は、世界的な問題なので、他の国も同様に行っていることを実施させるためにも、日本の一自治体も進んで、対策を実施することが、地球沸騰化対策の一助になり、世界の気運を上げる必要があります。このままの策で進めば、後世の人々に、住むことが出来ない環境を引き渡すことになるかと強く懸念しています。直ちに、追加施策を盛り込んだ、改訂版を作成してほしいと思います。太陽光発電・バイオマス発電の対策では、不十分です。不足しています。	（回答） ご意見ありがとうございます。本市は環境省が公募した脱炭素先行地域への認定や新たな藻場造成等によって二酸化炭素を削減するブルーカーボンの調査研究、成長の早い樹木である早生樹の試験栽培に着手するなど、率先して温室効果ガス排出削減に取り組んでいるところです。温室効果ガス排出削減は、行政だけでなく、市民や事業者の皆様にも協力をいただく必要があることから、省エネに関するセミナーや広報等を実施していく予定です。現段階では本計画の改訂の予定はありませんが、常に情報収集に努め、必要に応じて計画期間中に関わらず見直しを行います。	無